

九州支部だより

九州国際重粒子線がん治療センター見学会 参加印象記

岡島 敏浩

九州北部地域が梅雨入りしたばかりの6月4日(火)に、九州国際重粒子線がん治療センター(愛称:サガハイマツ)の見学会に参加した。サガハイマツは6月1日に開院した新しい重粒子線による最先端のがん治療施設で、国内では4番目、九州では初めての重粒子線がん治療施設であり、民間での重粒子線がん治療施設の開設は日本国内初である。治療装置等の整備・管理・運営は公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団が行っている。サガハイマツは、2011年3月12日に全線開通した九州新幹線の新鳥栖駅から徒歩で数分の所に位置している。また、施設がある鳥栖市は九州内を縦横に走る高速道路の交差点にもなっており、九州各県をはじめ、九州以外の地域からのアクセスも非常に便利である。

見学会当日は梅雨入りしたにもかかわらず晴天となり、暑い日であった。参加者は21名であった。参加者は前述した新鳥栖駅に集合し、そこから支部委員の案内で施設まで歩いて移動した。駅を出た途端、目の前にサガハイマツの施設を目にすることができ、施設に近づくにつれて、その大きさに圧倒された(写真1)。真っ先に目につく巨大な建物は、重粒子線を発生するための加速器が収納された建物である。既に外来が始まっているとのことで、患者さんへの配慮から、当日は玄関からではなく、施設裏口から建屋の中に入った。

見学会では、支部長である九州大学アイソト



写真1 新鳥栖駅を出た途端に現れるサガハイマツの建物

ープ総合研究センターの百島則幸先生より挨拶の後、九州国際重粒子線がん治療センター医師の末藤大明先生により「心と体にやさしい重粒子線がん治療」という題目で講演が行われた。講演の中では、サガハイマツ整備の状況や、放医研で行われた重粒子線による治療例などが紹介された。重粒子線によるがん治療は今後前立腺がんの患者さんから始められ、順次、適用を増やしていくとのことで、実際の照射治療は今年の8月頃から始まるとのことであった。大変興味深い講演をさせていただいたことから様々な質問が数多くあり、予定の時間を超えるほどであった。例えば、アメリカではがんの粒子線治療は陽子線がほとんどであるが、なぜ日本とは違うのか? や、加速器の運転はどのように

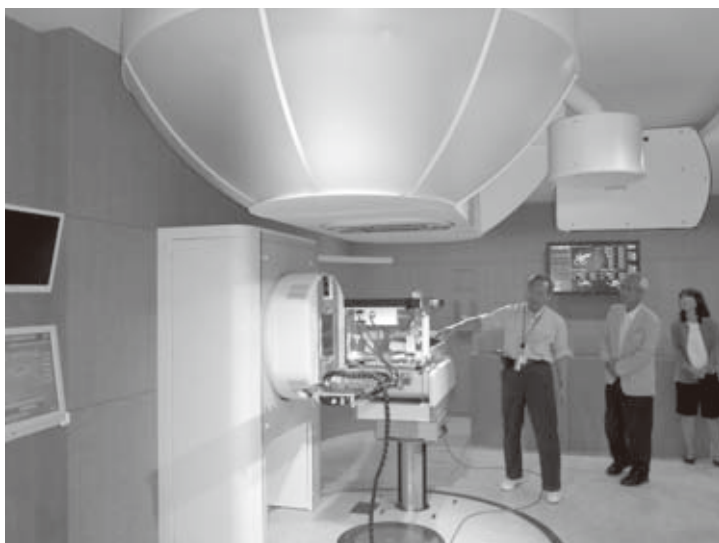


写真2 治療室内部の様子



写真3 治療室入口の壁にはめ込まれたスタンドグラス

行われていくのか？ など、がん治療以外の質問も数多く出たが、丁寧に回答をしていただいた。

末藤先生の講演に引き続き、物理室長の金澤光隆先生の案内で、治療室、治療計画CT、治療計画室など、開院したばかりの施設の中を見学させていただいた。重粒子線を発生するシンクロトロンなどの加速器設備は、見学会当日は調整運転を行っていたことから残念ながら見学することはできなかった。治療室は将来は3室となる予定だが、開設時は2室である。今回はその2室を見学させていただいた。写真2は治療室の1つで、この治療室では、垂直方向からと水平方向からの2方

向からの重粒子線照射が可能になっている。別の部屋では、斜め45°からの照射も可能になっている。治療室入口には、通路に沿った壁にスタンドグラスがはめ込まれていたり（写真3）、治療室内もLED照明を利用して落ち着いた雰囲気的空間を作り出せるようになっていた。重粒子線治療はからだに負担をかけない優しい治療と言われているが、治療を受ける患者さんの気持ちを考え、落ち着いた雰囲気で治療を受けられるような配慮が至るところで感じられた。

最後に、非常にタイトなスケジュールで立上げを行い、開院したばかりで大変忙しい業務の中、見学会の開催をご快諾いただき、当日の対応をしてくださったサガハイマツ職員の方々に御礼を申し上げます。

（佐賀県立九州シンクロトロン光研究センター）

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

上養義朋（委員長）、池本祐志、小野孝二、川辺 陸、鈴木朗史、桧垣正吾、宮本昌明、吉田浩子